

ティーチングポートフォリオ（令和2年度）

准教授 木村貴子

1. 教育の責任

担当する専門分野は「音楽」であり、主に保育者が現場で必要とする音楽に関する知識や技術、各発達段階における音楽の役割、表現等について教授している。その他、教育実習、レクリエーション、郷土と文化について主担当を務める。具体的な科目について以下に示す。

| 科目分類 | 科目名 | 形態 | 開設学年(単位数) | 卒業必修 | 幼稚園教諭 | 保育士資格 | レク資格 |
|------|----------------|----|-----------|------|-------|-------|------|
| 専門科目 | 保育の展開技術(音楽)Ⅰ | 演習 | 1年前期(1) | | | △ | |
| | 子どもの生活と音楽遊びⅠ | 演習 | 1年後期(1) | | | ○ | |
| | 保育の展開技術(音楽)Ⅱ | 演習 | 2年後期(1) | | | △ | |
| | 子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ | 演習 | 2年後期(1) | ○ | | ○ | |
| | 教育実習 | 実習 | 1,2年通年(5) | | ○ | | |
| | レクリエーション論 | 講義 | 1年前期(2) | | | | ○ |
| | レクリエーション演習 | 演習 | 2年前期(1) | | | | ○ |
| | レクリエーション実習 | 実習 | 1年通年(1) | | | | ○ |
| 教養科目 | 郷土と文化 | 演習 | 1年前期(1) | ○ | | | |

その他、特別研究、カワイピアノグレード伴奏付けの指導を担当する。「中短♪音れくサークル」の顧問としては、音楽療法に基づいたレクリエーションを地域の子供達や高齢者へ実践し、授業で学んだ知識や技術を深める機会を学生へ提供している。また、2年生クラスアドバイザーとして、学生指導（履修や進学・編入学、就職活動、学生生活の相談対応等）を行った。

学外においては、青森市レクリエーション協会主催の会員研修会講師として、レクリエーション資格取得予定者およびインストラクターに対し、音楽レクリエーションの実施方法について教授した。

2. 教育の理念と目的

専門科目においては、知識と技術に基づき、支援者が求める適切な支援を提供できる保育者を育成したいと考えている。そのためには、以下の点に留意し、授業を展開する。

- ① 理論に基づき、各発達段階における音楽の持つ役割を明示する。
- ② 音楽の持つ楽しさや特性を踏まえ、各発達段階における音楽を用いた保育活動について教授する。
- ③ 実技や演習についての練習や発表を経験することで、一つの活動や作品を創り上げていく達成感や喜び、他者との協調性を育む。
- ④ 生涯学習の一つとして音楽を捉えることができるよう、ピアノ演奏やその他楽器演奏、伴奏付け、歌唱等の音楽に関する基礎を身に付けさせる。

3. 方法

① 理論に基づき、各発達段階における音楽の持つ役割を明示する

「発達段階と音あそびについて」というテーマで文献や研究結果の内容をパワーポイントに簡潔にまとめ、各年齢の発達段階に対する音や音楽の役割を解説した。また、理解した内容を記述するレポート課題を提出させることで、学生が学んだことを整理し、復習できるようにした。

② 音楽の持つ楽しさや特性を踏まえ、各発達段階における音楽を用いた保育活動について教授する

ピアノ伴奏の基礎として学ぶコードによる簡易伴奏を、子ども達の身体活動に応用できる伴奏にアレンジし、提供している。学生はそれぞれの子どもの発達段階や身体の動きに合わせてそれらの伴奏を活用できるよう練習し、授業内の実技テストで各担当教員がチェックを行っている。更に実践力を深めたい学生には、学外実習以外にサークル活動において対象者へ実践できる機会を提供している。

③ 実技や演習についての練習や発表を経験することで、一つの活動や作品を創り上げていく達成感や喜び、他者との協調性を育む

演習においてはグループワークを用い、全員が協力して取り組めるようグループ内の各メンバーにそれぞれ役割を持たせ、課題解決や話し合いの場を提供し、教員は連携して状況を確認、指導を行っている。レクリエーション演習におけるグループ発表後は、学生間でも互いに評価し合えるよう、評価シートへ点数と感想を記載させ、教員からのフィードバックと共に学生からの意見もフィードバックできるよう工夫した。子どもの生活と遊び発表演習Ⅱにおいては合奏用にスコア譜を作成し、学生がパートごとに練習・合奏できるようにしている。曲を仕上げて行く段階でスコア譜を用い、学生は読譜力や移調の技術、指揮法、担当楽器の奏法を学んでいく。合奏を行う事で、互いに聴き合いながら演奏をするアンサンブル能力や、完成度を高める際に必要な表現力を身に付ける。

④ 生涯学習の一つとして音楽を捉えることができるよう、ピアノ演奏やその他楽器演奏、伴奏付け、歌唱等の音楽に関する基礎を身に付けさせる

学生一人一人のピアノ演奏技術のレベルに合わせるために、グループ指導において全体への指導・課題提示を行うと共に、個人指導においてはマンツーマンのレッスンを行い、初心者と経験者どちらも自身のレベルに合ったレッスン内容を享受できるように配慮している。また、コードを扱うことにより、機能的にピアノ伴奏ができることから、特にピアノ演奏初心者に対して有効なテクニックとして紹介している。ピアノ経験者には、自身がまとめた「伴奏付けの指導方法に関する一考察～カワイピアノグレード6級「伴奏付け」より～青森中央短期大学研究紀要第30号 p115-122」をテキストとして用い、カワイピアノグレードテスト6級取得に必要な技術を教授している。

授業内における各学生の習熟度を確認するために、共通のピアノ課題内容について記載されたチェックシートを作成し、教員、非常勤講師全てが担当学生のピアノ習得の進捗を確認、共有できるようにしている。また、本シートは課題習得毎に点数化され、学生が自身の習得状況について確認できると共に、教員が学生の授業理解度について評価する際にも活用している。

2年生最後の音楽に関する授業「ピアノ表現法」では、学期末試験の課題として、学生自身が選曲し、時間をかけて練習した曲をコンサート形式で発表することで、生涯学習へ繋げている。

4. 評価と成果

「子どもの生活と音楽遊びⅠ」で課すレポートは、授業1～3で学んだ内容をまとめるという課題とした。評価は、A「授業の内容をまとめるだけではなく、自身の考え等も記述している」、B「授業の内容をしっかりとまとめている」、C「誤字・脱字・文法ミスや字数不足がある」「提出遅れ」、Dを「未提出」とした。結果、53名中Aは全体の35%（昨年27%）、Bは41%（昨年58%）、Cは17%（昨年10%）、Dは7%（昨年1%）であった。昨年度の学生に比べA評価の学生は増えたが、それ以外のB,C,D評価の学生も増えており、レポートを書ける学生と書けない学生の差が大きくなったと言える。本レポート課題は、1年後期の最初に行われるため、前期に行われる初年次教育や、その他授業内で課されるレポート課題などを通して、レポートの書き方については更に詳しく教授していく必要があると考える。

また、ピアノの実技に関する授業では、複数に渡る課題やそれらの点数を可視化したチェックシートを最初に配布して用いることにより、学生は到達目標を確認しながら課題に取り組めたのではないかとと思う。非常勤の先生方と合わせて4人体制で行う授業においても互いに連携を取り合い、学生一人一人のレベルに合わせた課題提示や授業を行うことが出来たと考える。上記レポート課題を含む「子どもの生活と音楽遊びⅠ」における実技の結果は、54名中S～Bは全体の85%（内、Sは7名）、C+～Dは全体の15%（内、Dは1名）という結果となった。

授業内で学び、練習・発表した実技については、1年後期最後に行われる観察実習の中で実践している学生もおり、園と養成校との連携という点において、今後更に授業で学んだ内容がどのように園で活かされるのか、課外活動やサークル活動も通して検討していきたい。

5. 今後の目標

1) 応用力をつけさせる

実際に学ぶ実技がどのように園の生活で活かされ、子ども達の成長や発達を促すことに繋がるのか、視聴覚資料なども使用し、授業を展開したい。

2) 附属園との連携

学内で学んだ知識や技術を附属園で実践する機会を増やし、授業との連動を図りたい。また、附属第二認定こども園との共同研究も進めているので、それらの成果を授業内容に反映させたい。

3) ピアノの練習に対するモチベーションを向上させる

モチベーションを向上させるために、ピアノの練習を継続し演奏技術を向上させることが、子ども達の成長や発達の支援に繋がるのだということを授業や特別研究等での指導を通して分かり易く学生に伝えたい。また、実際に支援者と音を楽しむ体験ができる機会を積極的に提供することで、保育者自身が音楽を楽しむということの大切さを伝えたい。

根拠資料リスト

- ・採点登録評価割合詳細
- ・シラバス
- ・授業レポート
- ・ピアノレッスンチェックシート